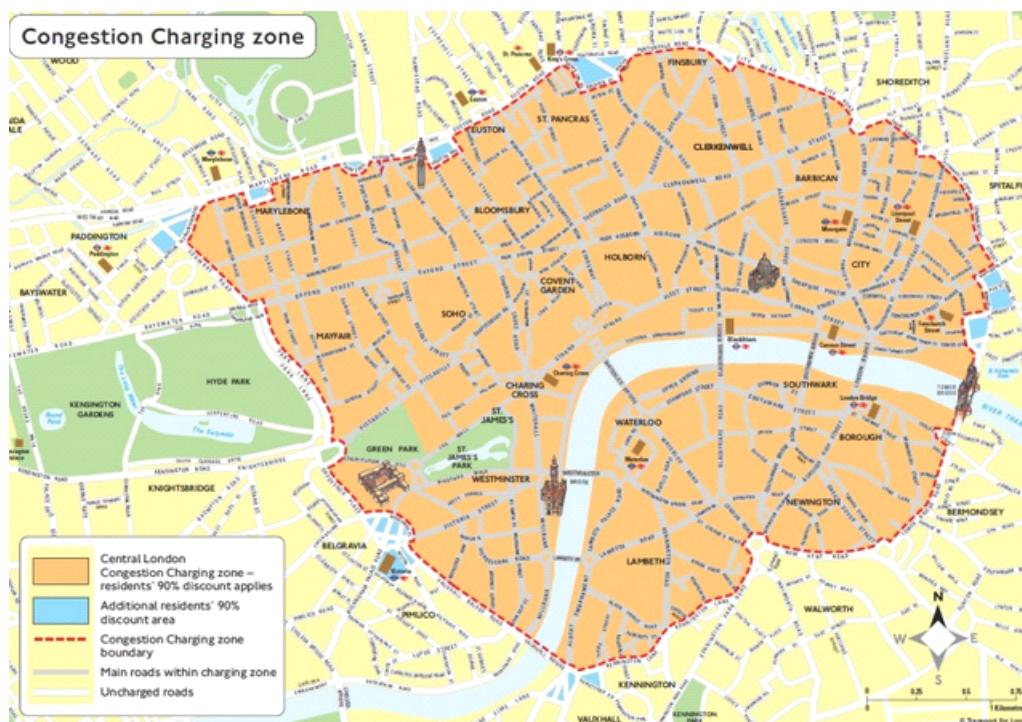


ロンドンの大気汚染削減策の現状 ①

英国の首都ロンドンには人口 860 万人で、近郊の都市を含むロンドン首都圏では 1300 万人を抱えるヨーロッパ最大の都市圏を形成しています。一方で、増え続けるロンドンの人口に観光客の増加、活発な経済活動による物流の増加による交通量の増加は、ロンドンの主要幹線道路の大気汚染に影響を及ぼし、当局の厳しい環境基準にもかかわらず、この 10 年間、例えば NO2（二酸化窒素）の排出量は 15%削減と改善はされていますが劇的な改善に至っていないとは言えない状況であります。

2003 年、渋滞税（コンジェスチンチャージ）を導入

このような状況の中、2003 年に当時市長だったケン・リビングストン氏によって発案されたロンドン中心部の指定地域（約 22 k m²）への進入車両の削減と渋滞緩和による大気汚染の削減を目指して、中心部に乗り入れる一般車両に対して課税する渋滞税（コンジェスチンチャージ）がスタートしました。



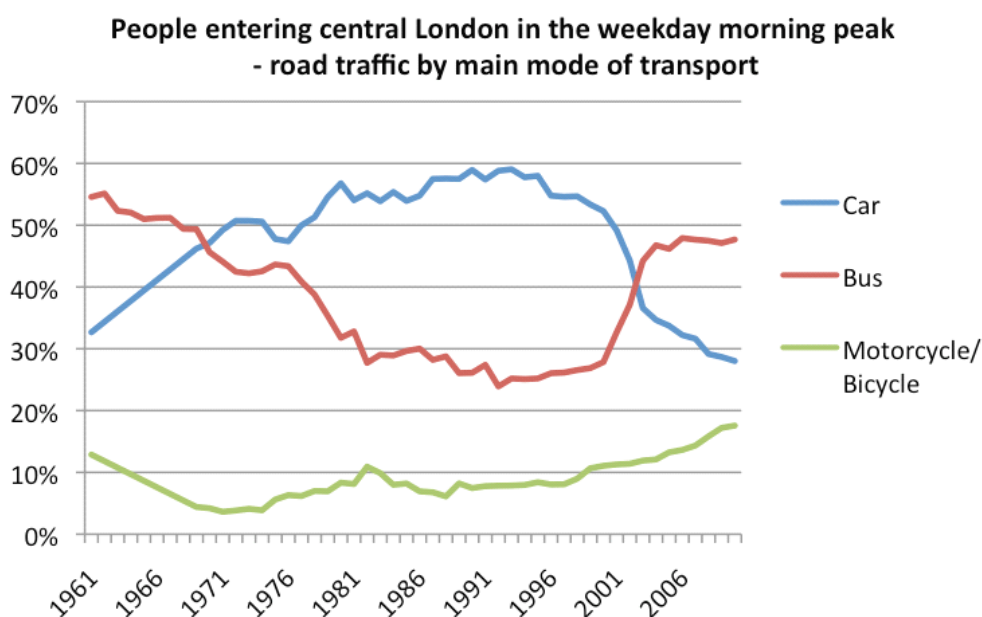
ロンドン中心部の渋滞税課税対象地域（出所：ロンドン交通局）

渋滞税は月～金の 07:00～18:00 の間に中心部に進入した場合に、£ 11. 50 (2, 130 円) {当初は £ 5. 00 が £ 8. 00、£ 11. 50 と値上げされて来た} が課税されます。事前に車の登録番号を

登録すると、指定の銀行口座、クレジットカードからの自動引落としとなり、その場合は課税額が£ 10.50(1,940円)と割引となります。事前登録をしてない場合は当日の午前0時までに、スマホ経由での支払いや銀行のデビットカードやクレジットカードが使えるあらゆる小売店での支払いが可能です。支払いがその日の午前0時までに実行できない場合は、課税額は£ 14.00(2,600円)となり、更に、翌日の午前0時までに支払が実行できない場合は、Penalty Charge Notice（支払不履行証）が発行され支払額は£ 130(24,000円)に跳ね上がります。しかし14日以内に支払を実行すると£ 65（12,000円）に減額されます。但し、以下の様な免税や減額措置もあります。

- ・指定地域内の住民は渋滞税の90%減額
- ・電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車の低炭素車両は免税
- ・バス（乗車定員9名以上）、タクシー、ハイヤーは免税
- ・モーターバイク、自転車は免税
- ・障害者の車は免税

今年で13年目になる渋滞税ですが、その効果は着実に上がっており、昨年の税収は£ 235m(435億円)で、その財源は法律でロンドン交通局管轄の地下鉄やバス事業の近代化に使用されることが明記されています。ロンドン交通局のAnnual Reportによりますと、渋滞税がスタートして4年後の2006年には、ロンドン中心部への乗り入れ車両は37.万台から24万台と36%も削減され、その結果平均速度が14kmhから16kmhにアップし、CO2は18%削減したとされています。2010年と2014年との比較ではバスの乗客が5%、地下鉄の乗客は18%アップし、自転車での進入は何と49%もアップしたと報告されています。



朝のピーク時のロンドン中心部への通勤者の陸上交通別の変遷（出所：ロンドン交通局）

さて、実際に渋滞税の課税から徴収をどの様に行われているかではありますが、私が知る限りでは特に目新しい新技術を駆使しているとは思えません。一言で言いますと、既存の技術や機器を巧妙に使いこなして、それらを一つの渋滞税制度としてシステム化しているに過ぎないと思います。

まず、渋滞税課税地域を決定し、その地域に出入り出来る全ての道路に車の登録番号読み取り専用のカメラが設置されています。つまり渋滞税課税対象地域の看板と前述のカメラが設置されているだけでゲートも何もありません。これによって、進入した車は停車する必要もなく登録番号が瞬時に読み取られ、センターのデータベースと照合し支払いが口座引き落とし (Auto Pay) かどうかを照合し、Auto Pay の場合は、自動引き落としが実行され、そうでない場合は、翌日の午前 0 時までには支払いが実行されるかどうか監視し、支払い実行されない場合は Penalty Charge Notice が郵送される仕組みになっています。どうも英国人は何も金ピカの最新技術でなくても、既存の完成度の高い技術やアプリケーションを巧妙に組み合わせて、一つの必要なシステムを造り上げる能力に長けているのではと思えてなりません。

渋滞税を導入して 13 年目にもなるロンドン交通局には、相当のノウハウが蓄積されているはずであり、それなりに完成度の高いシステムだと思われます。東京とロンドンは姉妹都市となっています。おりからロンドンのジョンソン市長が来日中ですので、これを機会に大都会ロンドンで出来ている渋滞税制度が、大都会東京でも出来ないものなのか本制度を導入すると東京オリンピックの交通渋滞削減にも貢献するはずであり、もうそろそろ渋滞税制度を真剣に検討する時期が来ているのではと思えてなりません。(了)